

【団体支援寄附】

—全7事業（7団体）—

薪(ピザ窯・ストーブ・焚き火)を核にした障害児者と地域住民が集う子ども食堂事業

特定非営利活動法人 なないろサーカス団

実施目的

障害者就労支援で作成した薪を使用し、ピザ窯・ストーブ・焚き火を核にした子ども食堂を始めることで、障害者の継続した就労支援と地域貢献を目的とします。

実施内容

森林整備をかねて、間伐した木を使って障害者就労支援施設で行っている薪づくりを循環型エネルギーにかえ、薪ストーブや焚き火に使用しました。また、ピザ窯を使用してピザづくりをすることで、住民が集う子ども食堂に温もりを与えました。

<期間>

令和5年1月1日～3月31日

<場所>

奈良県北葛城郡王寺町畠田2丁目88(木工棟前空きスペース)

<対象>

障害者施設に通う利用者、子ども食堂利用者、地域住民、運営スタッフ

<スケジュール>

令和5年1月1日 子ども食堂を含む集い事業スタート

令和5年3月31日 年度内最後の集い事業

・毎月第3木曜日 10-14時 子ども食堂

・木金 障害者就労支援として木工地域特産品、家具制作

(月火水の地域住民向け木工教室は現地リフォームのため実施できず。)

事業総額:

300,281円

補助金額:

190,000円

団体名:

特定非営利活動法人
なないろサーカス団

所在地:

奈良県北葛城郡王寺町
畠田3-7-23

代表者:

理事長 中川 直美

設立の目的:

障害をもつ人々に対し、日中活動及び労働の場を提供し、社会参加を促進していくための事業を行う。また、すべての人が健やかに暮らせる地域社会づくりと福祉の増進に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

薪窯を使った子ども食堂(森のピザ屋)は好評を得ました。また、地元小学校の社会見学を受け入れ、障害者施設の薪作りの様子を紹介しました。食や温もりの中心に地域の木があり、それを循環させる生活の提案を始めており、その活動の中で地域の方が集い、繋がりが生まれ始めました。今後はこの活動が持続的なものとなり、発展していくことを目指していきます。

稲作を通しての食育推進と地域の環境美化活動事業

特定非営利活動法人 共生学舎

実施目的

米作りを通じて、稲・畑作文化と食の大切さを体験すること、里山地域の環境美化・生物多様性の維持の為に整備・保全を行い、地域住民・利用者への安全確保を目的とします。

実施内容

稲刈りを通して農作業の厳しさを知り、収穫祭の餅つきで食の楽しさを体験してもらいます。また、環境保全として地域内遊歩道の清掃・草刈りと花壇整備を、自然環境整備として地域内竹林整備と稲作用水路の整備を行います。

<期間>

令和4年9月20日～令和4年12月24日

<場所>

奈良市佐紀町地内

<対象>

協働団体やNPO会員の子ども、地域住民、地域利用者

<スケジュール>

令和4年9月～12月：月2回の地域内の清掃・ゴミ拾い・除草・側溝清掃、遊歩道沿いの花壇の整備と花苗植栽の実施

令和4年10月15日：稲刈りイベント開催

令和4年10月～12月：月1回の竹林整備、用水路浚渫・整備

令和4年12月4日：収穫祭（餅つき大会）開催

事業総額：

208,712 円

補助金額：

195,225 円

団体名：

特定非営利活動法人
共生学舎

所在地：

奈良市佐紀町 1360

代表者：

理事長 森島 紹夫

設立の目的：

県民の生活福祉の向上と、日常で人の生活の基本である衣食住に関わる改善と保全の事業と支援奉仕活動を推進して、住民と社会に貢献して寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

稲刈りを中心にした事業展開でしたが、各活動の参加者は直接自然に触れて活動できたことに、自然との距離感が縮まったと感じていたようでした。

今後も稲作事業を中心としながら、自然環境保全事業全般をアピールする機会を創造していく自信と責任を感じました。

京終 PR プロジェクト

特定非営利活動法人 京終

実施目的

京終駅前広場には、情報を発信する看板及びツールが不足しているため地域の行事や活動がうまく伝わっていないことが多々ありました。PR 用看板を設置し、地域のイベント情報や防犯等の情報発信が柔軟にできることを目的とします。

実施内容

京終駅前広場に看板の設置

(地域の情報発信 ※イルミネーション等および防犯活用等)

<期間>

令和4年9月10日～令和4年11月26日

<場所>

京終駅前広場

<対象>

京終駅および駅前を利用する住民、観光客

<スケジュール>

令和4年 9月 看板業者とすり合わせ

11月25日 設置

11月末 事後処理

事業総額:

190,000円

補助金額:

190,000円

団体名:

特定非営利活動法人

京終

所在地:

奈良市南京終町

4-376-1

代表者:

理事長 萩原 敏明

設立の目的:

歴史的資産を生かした「ひとづくり・まちづくり」のための事業等を行い、京終周辺地区にある歴史的資産を次代に残していくことに寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

PR 看板を設置したことで、通学路として活用する子ども達、駅利用者、地域住民も足を止め、イベント、防犯等の情報発信の掲示物を見られています。地域 PR 等の相乗効果として、他団体からも掲載依頼等の問い合わせもありました。

実施目的

従来の読み聞かせではなく、音楽や映像を用いて「子どもの想像力を育む」ことを目的とします。また、オンラインではなく会場で実際にリアルな音・映像に触れることで、コロナ禍で希薄になりがちな「絆」も生まれることに期待しています。

実施内容

- ・NPO 法人ハーモニークラブによる体験型ライブ「えほんライブ（イートンとモリのどうぶつたち・トゲトゲのシャボン）」
- ・TU-KO&heidi による音楽と手話絵本「ちっちゃな花」

<期間>

令和4年10月3日～令和4年11月22日

<場所>

大阪市都島区片町 2 丁目7-25 アンシャンテビル2F NAGARABBIT CAFE

<対象>

一般（19名）

<スケジュール>

リハーサル日 令和4年10月12日 14:00～17:00

当日 令和4年11月3日 14:30～17:00

事業総額:

212,369円

補助金額:

190,000円

団体名:

特定非営利活動法人
おひさまひろば

所在地:

桜井市大字河西
239番地の6

代表者:

理事長 太地 久恵

設立の目的:

子育て支援・障がい児支援事業を通して、安心して子育てができる環境づくりや、子ども達が安心して遊び、学べる地域社会を目指す。また世代間交流活動を通してネットワークづくりを推進し、地域社会・地域福祉に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

演者からの問いかけに対するレスポンスがあったり、参加者と一緒に歌う、アクションをするなど会場が一体となって取り組むことができました。読み聞かせの場面では全参加者が絵本の世界に見入られるように注視しました。以上のことから「子どもの想像力を育む」という点では一定の効果は達成できたと思います。また、参加者同士でも意見交流があり、絆を生み出すという意味でも非常に効果的であったと思います。ただ、この効果を一過性のものとして終わらせることなく定期的にかつ規模を拡大させながら絵本の魅力を広め、絆の輪を大きくしていきたいと思っています。

ルート配達業務の円滑化

特定非営利活動法人 なら福祉介護ネット

実施目的

これまでは配食ボランティアメンバーが兼ねて配達も行っていましたが、参加回数の少ないメンバーでは利用者の安否確認が円滑ではないこと、運転というリスクの伴う業務を個人の責任に委ねていたことを団体として改善に向けて取り組みます。

実施内容

設立当初より運転ボランティアメンバーが調理ボランティアメンバーを同乗させて配食業務を行ってきましたが、1人乗り配達用電気自動車導入に伴い、配達と運転について、1人で責任を持って行うこととなりました。

<期間>

令和4年11月1日～令和4年12月28日

<場所>

片桐民主診療所内 配食グループのぞみ

<対象>

運転配達メンバー

<スケジュール>

- ・運転配達業務専門メンバーの受け入れ、研修
(令和4年11月1日～12月28日のうち土日を除く10時半～12時)
- ・配達専用ルートのカーナビゲーションシステムの導入(令和4年11月15日)
- ・小型電気自動車内で扱いやすい配食専用容器の導入
(令和4年11月6日、15日、26日、12月3日)

事業総額:

191,537円

補助金額:

190,000円

団体名:

特定非営利活動法人
なら福祉介護ネット

所在地:

大和郡山市新町305-92

代表者:

理事長 坂本 博道

設立の目的:

奈良県民及びその近接住民に対し、福祉・介護等に関する事業を行い、人権の擁護と平和で安心して住み続けられるまちづくりをめざし地域の福祉の増進に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

1人で行うことにより運転の集中の向上につながり、長期化するコロナ社会に対応することとなりました。同時に一定の固定メンバーによる利用者の見守りとなったため、利用者方の日々の様子の把握もより確実なものとなりました。

実施目的

子どものアドボケイト（権利擁護）を中心に、自分たちはどんな町で生きていきたいかを考えて実施することを目的とします。

実施内容

ドイツのミュンヘン市で2年に1回開催されている「ミニ・ミュンヘン」という子どものまちづくりイベントがあります。子ども会議で子ども自身がどんな町で暮らしたいか、どう生きていきたいか、どんな人になりたいかを「きく」ワークショップを実施します。

<期間>

令和5年1月11日～令和5年3月25日

<場所>

県営平城宮跡歴史公園 宮跡展望室

<対象>

県内在住の小学1～6年生（令和4年度在籍）

<スケジュール>

子ども会議・・・子ども達とのディスカッション

（令和5年1月21日、2月25日、3月11日、3月24日）

ミニまほろば・・・まちを運営（令和5年3月25日）

事業総額：

190,196円

補助金額：

190,000円

団体名：

特定非営利活動法人
子育て研究 tocotoco

所在地：

檀原市上品寺町
370番地の31

代表者：

理事長 辻川 朱利

設立の目的：

現代社会における子育てに関する課題の研究と子育てに不安や悩みを抱える保護者及び教育者等に対する研修及び支援を行い、子どもが孤立せず明るく安心して生活できる健全な社会の実現に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

4日間の子ども会議を通じて、当初自己紹介もできなかった子どもが4日目には自分から名前や思いを伝えることができるようになりました。

ミニまほろば当日、大人スタッフは100%裏方で居る予定でしたが、「大人と子どもも対等」ということを守りつつ、子ども達と共に町で過ごすことになりました。自分たちの理想の実現をただ見守るだけでなく、一緒に作り上げるという大人の姿も子ども達と共有できました。自分たちがしたいことが形になる、できない現実もあるが夢は叶うということを実践できました。

引退補助犬支援啓発活動

特定非営利活動法人 日本サービスドッグ協会

実施目的

啓発活動として、会報64号を配布することにより、会員や一般の方に引退補助犬飼育ボランティアや当協会の活動について理解を深め、賛助会員を増やします。また、寄付や募金箱設置協力店を募集します。

実施内容

引退補助犬支援活動の啓発及び理解を深め、引退補助犬支援活動への協力を求めるために、会報64号を作成し、会員ならびに一般の方に配布する。

<期間>

令和5年1月28日～令和5年3月31日

<場所>

日本サービスドッグ協会事務所

<対象>

会員および一般

<スケジュール>

令和5年

- ・1月28日 会報64号発行作業開始
- ・1月30日 会報64号印刷
- ・3月8日 会報64号発送作業および配布開始
- ・3月31日 会報64号による引退補助犬支援啓発活動事業終了

事業総額:

107,200円

補助金額:

104,500円

団体名:

特定非営利活動法人
サービスドッグ協会

所在地:

葛城市新村210

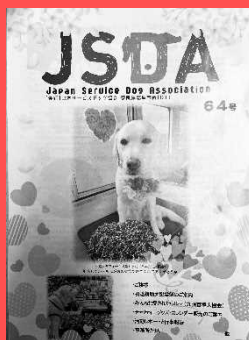
代表者:

理事長 谷口 二郎

設立の目的:

身体障害者に対して社会参加を促し、自立を確立するために必要となる補助犬の重要性を啓発する。また、住民意識の認識・発展及び補助犬との交流活性化のため、補助犬の育成・支援に関する事業等を行うことにより、社会福祉の増進や、社会教育の推進に寄与することを目的とする。

事業の様子



実施効果

会報64号を作成し、会員ならびに一般の方に配布することにより、引退補助犬支援活動の啓発および理解を深めることができ、寄附や賛助会員の入会者も増加しました。寄附物品で送ってくださる使い捨てのタオル等も老犬介護には必要ですごく助かっています。

また、企業様より介護用品やドッグフードの寄付もいただくことができました。